



執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

# 青梅LC 40周年刻む

## 青少年の健全な成長テーマに記念事業 森林保全やフードバンクなど支援広げる

東京青梅ライオンズクラブ(岩浪武夫会長)は5月25日、青梅市の霞共益会館で創立40周年記念例会を開いた。岩浪会長をはじめ同クラブ会員と浜中啓一市長ら来賓を合わせて60人余りが出席



来賓の皆さんと一緒に記念撮影する岩浪会長ら

「社会奉仕に精進する」とのライオンズの誓いを再度胸に刻み、今後も努力したい」と呼びかけた。席上、現在も現役会員として頑張るチャーターメンバー7人に感謝状が贈られた。

し、クラブの歩みを振り返るとともにさらなる発展を誓った。同クラブは1982年10月に結成された。初代会長に水村一郎氏が就任し、総勢37人が参加した。市内のスポーツ少年団体などと清掃を行う「ビュティフル青梅の日」やアイバンク登録活動、ふれあい福祉ボウリングやチャリティーゴルフ大会の開催、講演やコンサートなどの文化活動、献血活動などを毎年続け、青少年の健全育成、地域社会の発展に貢献してきた。



チャーターメンバーに感謝状が贈られた

た。会員数は現在43人。結成40周年の記念事業では、社会課題と向き合い、森林環境保全活動、フードバンク活動への支援のほか、引き続き青梅アイバンク推進協議会への支援、「ビュティフル青梅の日」の協力団体への助成金交付などを実施した。記念例会であいさつに立った岩浪会長は「コロナ禍で十分な活動ができていない中、会員一丸で40周年事業に取り組みできた。50周年を見据え、いかなる状況にも順応して漸進していきたい」と語った。杉山南見夫40周年実行委員長は「記念事業は青少年の健全な成長がテーマ。事業を通じ、『友愛と相互理解の精神を養

# スポーツは「最幸」のツール

## 地域で、世界できらきら輝く若者を輩出したい

# 如是我聞

## 宗禅寺土曜講座聴聞記②



「スポーツの力で素敵な人を育て、みんなを笑顔にしたい」と篠田さん

羽村市川崎の宗禅寺で5月14日、土曜講座が開かれ、福生市を拠点に活動するスポーツクラブGONA代表の篠田直さんが「スポーツの力で素敵な人を育て、みんなを笑顔にしたい」と意気込みを語った。写真。早稲田大学大学院人間科学研究科を修了し、同大発育発達研究所招聘研究員でもある篠田さんは、子どもたちにまでスマートフォ

# スポーツクラブGONA代表 篠田直さん

ンが行き渡り、通信で様々なことができる社会生活の変化や、ボールを使えない、大声を出せないなどの禁止事項で活発に遊べなくなっている公園問題などを背景に近年は動かない子どもが増えていると指摘。運動不足は心身の発育発達に悪影響を与えているとした。子どもたちに運動の場を提供するためスポーツ教室を開催して、みんなを笑顔にしたい」と意気込みを語った。写真。早稲田大学大学院人間科学研究科を修了し、同大発育発達研究所招聘研究員でもある篠田さんは、子どもたちにまでスマートフォ

「ライバルはドイツに「ランド」をモットーに、洞窟キャンプ、海キャンプをはじめ、多摩川河口や源流を訪ねる川キャンプ、富士登山キャンプ、ニユースポーツを集めたスポーツフェスティバル「スマスポ」など、子どもたちの笑顔を主役とした活動を多く企画し開催。SDGsにつながるゴミ拾いや坐禅会、食育、母の日にカーネーションを贈るなど心の成長につながる取り組みにも励んでいることを報告した。篠田さんは「西多摩、東京、日本、世界で、タネをあかし、聴講者もできるマジックを伝授した。写真。レギュラーの仏教講座は高井和正住職が「織田信長と仏教」をテーマに語った。有名な比叡山焼き討ちや安土城の中に建設された摠見寺、信長の教育係を務め、「天下布武」の文句を進言した沢彦宗恩師などに触れ、無神論者とされがちな信長だが、むしろ現実的な人と言った方が妥当だろうとした。 ※「如是我聞」では土曜講座を連載でレポートします。

た、1つの種目ばかりを行う子が多く、その種目はできて基本的な運動能力が低い子や、スポーツ障害の発生が多いことも問題だと指摘した。正しい指導の下でスポーツができる場を確保すること、そのルーツを訪ねたらGONAが原点だったと言われるような存在、令和の松下村塾を目指したい。スポーツは「最幸」のツール」と訴えた。講座は西多摩の文化や暮らしをテーマに自分たちが住むまちの魅力、66回を数える中でスポーツがテーマになったのは初めて。当日は地域住民ら30人近くが熱心に耳を傾け、田村利光都議や清水義朋

市議会議長らの姿もあった。講演に次いで、マジッククラブ会長で、アマチュアでありながらプロとの共演も多い小俣道代さんが、紐やトランプ、花のマジックを披露。トランプや指を使ったマジックでは、タネをあかし、聴講者もできるマジックを伝授した。写真。レギュラーの仏教講座は高井和正住職が「織田信長と仏教」をテーマに語った。有名な比叡山焼き討ちや安土城の中に建設された摠見寺、信長の教育係を務め、「天下布武」の文句を進言した沢彦宗恩師などに触れ、無神論者とされがちな信長だが、むしろ現実的な人と言った方が妥当だろうとした。 ※「如是我聞」では土曜講座を連載でレポートします。

# 東海大学菅生高等学校 同窓会 『菅生川蟬会』

川蟬会は東海大学菅生高等学校の建学の精神に則り、会員相互の親睦を図り、併せて母校の発展に寄与することを目的としています。

事務局 学校法人菅生学園内 担当: 近藤英一  
〒197-0801 東京都あきる野市菅生 1468  
TEL.042-559-0066 (代表) / FAX.042-559-0577

# 寺は文化の発信地 創ろう地域の文化を人から歴史から

## そうぜんじ便利—神無月

第67回土曜講座 (お茶代300円) 6月1日 13時~16時

- 仏教講座・日本仏教史「豊臣秀吉と仏教」 住職 高井和正
- 「人に寄り添う」 チャイルドライン 青柳 里江子さん
- 「ペットと共に」 ペット霊園支配人 荒井 秀年さん

学生無料。予約不要。檀信徒以外の方の参加大歓迎。

りあるてらこや 6月11日(土) 午前9時~12時

お寺で子供会が開かれています。主催はらいむぎハウス。子供たちの居場所作りをしてくれています。勉強したり、一緒に遊んだり、一緒に食事を作ったりと、たくさんのボランティアの方々が慈しみの眼で子供たちを見守って下さいます。

臨濟宗建長寺派 宗禅寺 羽村市川崎2丁目8-20 ☎042-554-1276

# 東京25ジャーナル・高校同窓会かわら版

## 東海大学菅生高校 菅生川蟬会 第2号

### ZとGTRのカタログ手掛ける

#### 菅生時代はバスケット部一筋

広告代理店のアートディレクターとして活躍するのが3期生の横山順一さん(立川市曙町)。長年、日産などから依頼を受けた宣伝広告やカタログ制作などに携わる中で、昨年、今年とキャリアにひと際輝く仕事を成し遂げた。

今年4月に発売された日産フェアレディZのカタログと写真集を手掛けた。日本のスポ

#### 3期生 アートディレクター 横山順一さん

1ツカ一の最高峰に立つZの魅力凝縮。「めっちゃカッコいい」と大反響を呼んでいる。昨年はGTRで同様の仕事をした。幼少の時から車の名前を自然に覚え、小学生になると、深夜

に放映される「ル・マン」を夢中で観た。いつしかF1やグランドprixのモデルカーを集めるようになり、今も続く。自宅にはスパーク社製の43分の1スケールのレジンモデルを中心に数百台が並ぶ。シャイシやタイヤが取り外せ、エンジン、各種配線など細部にわた



フェアレディZ(右)とGTRの写真集を持つ横山さん

って精巧に作り込まれ、観賞用の虫眼鏡が付いているものもある。高校を卒業すると、車関係のデザインの仕事か機動隊に入るか迷ったが、「今の道を進んで良かった」と振り返る。正に天職

の言葉が当てはまる。多感な高校時代は車にのめり込んでいたのかと思いきや、バスケットボール部一筋だった。ポジションはフォワード。練習がとにかくきつかった記憶が残る。菅生バスケット部の築く代になるとも言

われた。足腰を鍛える意味で2年時から立川市の自宅から自転車に通った。顧問だった近藤英一先生には、長男で社会人の隼さん、次男で大学2年の幸さんも菅生中学、高校のバスケット部で指導を受けた。「父子3人、お世話になりました」と感謝する。2、3年時の担任はバレーボール部を指導する会田信一先生だった。

菅生川蟬会の活動を通して、少しばかり恩返しをしたいと思います。天才卓球少女として国民的アイドルになってきた福原愛さんが15歳で出場。卓球人気に拍車をかけた。「小学生や中学生で

#### 菅生川蟬会副会長 3期生 青木龍太さん

「1年生は13クラス、600人ほど。私たちの代で3学年がそろい、学校内に生徒があふれていた」と述懐するのは3期生の青木龍太さん。「同窓会が発会するので役員を引き受けて欲しい」と近藤英一先生に乞われ、気が付けば副会長になっていた。

青木さんが高校に入学した頃、父親の史義さん(83)があきる野市瀬戸岡の実家に秋川卓球センターを開所し

### 地元あきる野で卓球のスポーツを展開

#### この人

た。小学生の頃、少しかじった程度の卓球だったが、高校生活は、学校では卓球部、帰宅すればセンターで卓球

業した。前年のアテネ五輪に

漬けの毎日になった。「当時は何はさておき卓球をやりたいという気持ちがなかった。前向きな姿勢は上達を早め、ダブルスで関東大会に出場。卓球部の歴史に確かな1歩を記した。

卒業後は立川市にある電子機器メーカーに勤めた。2005年に史義さんの病気を機に16年間務めた会社を退職。卓球センターを継業した。

も練習を積みば大人とも戦える。るのスポーツに通う子どもたちの練習時間は飛躍的に伸びていった」という。指導方針は、心技体



一般を含め100人を超す選手が卓球に打ち込み、楽しむ

の心を大切に、自立型人間の育成に力を注いでいる。子どものやる気を引き出し、アウトプットに重きを置いた練習を重視している。こうした自己啓発型卓球指導を語る講演も各地で行ってきた。

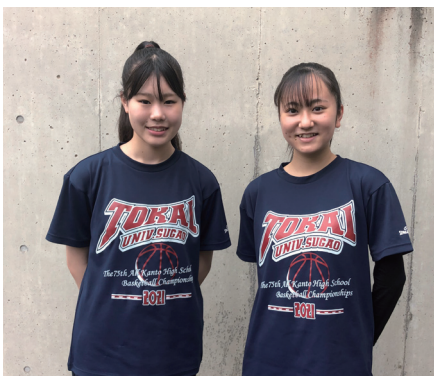
成果は31年連続で全国大会に出場し、2012年には全国ホープス選抜全国優勝を果たすなど輝かしい歴史を刻んできた。「在学当時は、卓球部顧問だった宝川鉄実先生、担任だった現校長の峰岸英仁先生、近

藤先生方に公私ともにお世話になりました。仕事柄SNSを利用しているのですが、偶然同級生とつながり、連絡を取り合えるのがうれしい」という。川蟬会もSNSなど情報通信を充実させ、同窓の輪を広げたいと願う。

2人「練習も試合も一生懸命にプレーする選手を一番そばで支えられること。マネージャーになってよかったと思います」先輩マネージャーとの連携は。2人「2学年上と1学年上にそれぞれ1人

### 男子バスケ 今年も関東出場

#### マネージャー 渡辺奈菜さんと金川心さん



喜びも悔しさも選手と共にある渡辺さん(右)と金川さん

男子バスケット部(三村龍太郎監督)は、活躍が華やかに報じられる野球部などの陰に隠れてはいるが、インターハイとウィンターカップにそれぞれ2回出場。ベスト8にも

なった強豪校だ。関東大会にも数度出場。2022年度も都代表で出場を決めている。OBには元全日本選手で、現在白鷲大学バスケット部監督の網野友雄さんら有名選手が数

多くいる。50人を超える大所帯を陰で支えるマネージャーは3年生の渡辺奈菜さんと金川心さん。三村監督の信頼も厚い。

マネージャーの仕事は。洗濯、掃除、道具や備品の管理、事務作業など多岐に渡る。試合ではスコアを付ける。肉弾戦の側面もあるスポーツだけにテーパーなどの手当てもマネージャーの役割だ。マネージャーになった動機は。渡辺「私は初等学校、中学、高校と菅生です。父が4期生で、バスケット部だったこともあってマネージャーになりました」金川「兄が菅生の中でバスケットをやっていたので、それがきっかけです」マネージャーになったきっかけは。渡辺「選手とのコミニケーションをとる今年目標は。2人「今月、神奈川で行われる関東大会で悔いのない試合ができるよう環境を整えていきたいです」将来の夢は。渡辺「大学で医療系の分野を学びたいと思っています」金川「まだ決めていないのですが、どのような道に進んでもマネージャーとしての経験は生きています」ありがとうございました。